AUE News

2014年1月15日

第 75 号

編集・発行
愛知教育大学広報チーム
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目 次

● 行事予定(1 月 16-31 日)
● トピックス
・招へい教職員による講演会
・Power Words コースコンテスト表彰式
・第 1 回 AUE「カエル」フォーラム
・第 5 回リベラルアーツ Edu セミナー
・小中高英語教育教員研修会
・土曜親子日本語教室でクリスマスパーティー
・陸上競技部の木引悠起子さんを学長表彰
・省エネ標語コンテスト表彰式
・理科実験プレ教員セミナー
・馬術部が初の学内競技会
・写真サークルが写真展
・第 89 回天文台一般公開
● お知らせ・報告・投稿
・グローバル授業とランチョンセミナー
・読書マラソンコメント大賞表彰式と中山七里さんのトークショー
・松田学長ら第 2 回日本・インドネシア学長会議に出席
・東海・北陸地区国立大学法人事務局長等会議
・海外協定校からの招へい教職員紹介
・催しもの案内

行事予定(1/16-31)

18 日(土)　大学入試センター試験（第一・第二共通棟、附属高校など、19 日まで）
22 日(水)　教授会（13：30～　第一会議室）
23 日(木)　経営協議会（14：30～　ＫＫＲホテル名古屋）

トピックス

招へい教職員による講演会(12/17)

昨年 12 月 17 日(火)、国際交流センターは、協定校から現在招へい中の教職員、中国・湖南師範大学教授の劉徳華先生と台湾・彰化師範大学事務職員の鄧彗妤氏の 2 人を講師に招き、今年度の「協定校からの招へい教職員による講演会」を開催しました。

教育学を専門とする劉先生は、「Thoughts on relationship of education and society in the perspective of comparison」というテーマで、教育と社会の関係性について、本学での研究内容を織り込みながら講演を行いました。

国際交流業務の担当職員である鄧氏は、彰化師範大学の歴史や立地等の概要とともに、同大学における国際交流活動について交換留学プログラムを中心に説明をしました。

また、講演終了後には、本学教職員や留学生から多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答も行われました。

2 月には、新たに来日する韓国、ブラジル、インドネシアからの招へい教職員を講師に招き、4 回目の講演会を開催する予定です。多くの教職員，学生の皆さんの参加をお待ちしています。

（教育創造機構運営課　国際交流担当　宮内春菜）

Power Wordsコースコンテスト表彰式（12/18）

本学の教員養成高度化センター小中英語教育支援部門は昨年年 10 月 1 日（火）から 2 カ月間にわたって、「Power Words コースコンテスト」を開催し、その賞品授与式を 12 月 18 日（水）に行いました。このコンテストは、アルク教育社と日立ソリューションズが共同開発している英語学習用 e ラーニングシステム「NetAcademy2」の一つ Power Words コースという英単語学習に特化したコースを用いて、2 人 1 組のチーム戦でポイントを競い合うというもの。全学年を対象に実施し、56 チーム 112 人もの学生が参加し素晴らしい戦いを繰り広げました。それぞれ「学長賞」「副学長（教育担当）賞」「生協賞」「アルク賞」「小中英語支援室賞」など合計 14 の賞と参加賞があり、賞品授与式ではアンケート記入の後に各賞品が手渡されました。

「学長賞」と「副学長（教育担当）賞」を受賞した 2 チームの表彰式は本部棟第五会議室にて別途行われました。式には松田正久学長、教務課の樋口眞二課長、秘書広報課の眞野遠慧係員に出席いただき、英語専攻から田口達也助教、小塚良孝が出席しました。田口助教によるコンテストの趣旨説明の後、松田学長が挨拶、直接図書カード等の豪華賞品が贈呈されました。当初緊張の面持ちであった学生も、松田学長が受賞式の前や最中に「英語は好き？」「どこの専攻？」「コンテストはためになった？」などと気さくに話しかけたことで、最後に記念撮影をする頃にはすっかり緊張がほぐれ、皆、素敵な笑顔となっていました。

今回のコンテストは小中英語教育支援部門としては初の試みでしたが、無事に成功を収めました。本コンテストが、学生の自発的な英語学習を促す良いきっかけとなれば幸いです。

（外国語教育講座　准教授　小塚良孝）

第 1 回AUE「カエル」フォーラム（12/18）

「第 1 回 AUE『カエル』フォーラム」が本学井ヶ谷荘 2 階の応接室で 12 月 18 日（水）に行われました。このフォーラムは、男女共同参画委員会の次世代育成支援ワーキング・グループ（次世代 WG）が男女共同参画に関する様々な話題についての情報共有や啓発を目的として企画したもので、「カエル」には、「変える」「帰る」「孵る」などの意味が込められています。

現在、男女共同参画委員会では、休日に業務がある教職員を対象とした休日託児の制度実施に向けて準備を進めています。第 1 回フォーラムには 15 人が参加。託児ボランティアグループとして刈谷市で活動されているママハウスの担当者と、刈谷市子育て支援課の担当者をゲストにお迎えし、本学での休日託児の実施に向けて、託児や子育て支援についての意見交換会を開催しました。

はじめに次世代 WG から、本学における休日託児の試行について説明があり、その後、休日託児をお願いするママハウスの事務局の方から、刈谷市ファミリーサポートセンターやママハウスの概要について説明がありました。フリートークでは、現在子育て中の参加者のみなさんから休日託児についての質問や、刈谷市ファミリーサポートセンターについての質問が寄せられました。

なお、フォーラムに先立ち、関係者による打ち合わせが行われ、休日託児で使用する部屋の下見などを行いました。席上、男女共同参画委員会の委員長より、休日託児は本学で初めて実施される取り組みであり、課題もあるが頑張って進めてほしいという挨拶がありました。

（次世代 WG 広報担当）

第 5 回リベラルアーツ Edu セミナー（12/19）

昨年 12 月 19 日（木）に、第 5 回リベラルアーツ Edu セミナー「シティズンシップと教養教育」を開催しました。東京大学大学院教育学研究科の小玉重夫教授が、シティズンシップ教育の捉え方と新しい教養教育のあり方について講演され、教職員 11 人、大学院生・学部生 7 人、プロジェクト関係者 6 人の計 24 人が出席して耳を傾けました。

小玉教授はまず、シティズンシップの捉え方として、「ボランティア的シティズンシップ」と「政治的シティズンシップ」の二つの考え方があり、後者がより重要であることが示されました。続いて、「市民」は「専門家に対する素人（アマチュア）」の意味をもち、シティズンシップの二つの特徴は、「アマチュアリズム」と「政治参加」であることが説明されました。具体的には、「無知な市民」「学力の市民化」というキーワードと共に、不確実性の高いリスク・コミュニケーション分野での専門家と市民（アマチュア）との協働の必要性や、ハンナ・アーレントが主張したアイヒマンの＜悪の凡庸さ＞を考えることの重要性が示されました。課題となる、専門家ではない「考える市民」の育成方法については、その実践例として、「アーリー・エクスポージャー」を重視する東京大学の教養教育が紹介されました。

コメンテーターの大学教育研究センター長の藤井啓之教授は、学生がアルバイトや教育実習で社会にさらされても適応的にならずに自ら考えるための契機や、職業教育と教養教育の関係を論点として述べられ、教養教育において多様な専門や社会の様々な問題に学生が触れる際の課題を中心に議論を深める場となりました。

（教育創造開発機構　大学教育研究センター　リベラル･アーツ教育部門研究員　久保田祐歌）

小中高英語教育教員研修会（12/21、22）

小中高英語教育教員研修会（小中英語教育支援部門主催）を昨年 12 月 21 日（土）、22 日（日）の 2 日間にわたり開催しました。毎年この時期に本学高橋美由紀教授（英語教育）を中心として開催している冬の研修会で、今回 7 度目。発表者、指導助言者 56 人や、小中高大学の教員、学生、英語教育関係者など計 257 人が参加しました。

1 日目は、専修大学の田邉祐司教授の講演をメインに、現職の教員による実践事例発表。田邉教授の講演では「“声に表情”を持たせる音声指導」をテーマに、「授業で使われる英語は児童生徒の情動を喚起するものでなければならない。ただ音読させるのではなく、発音、リズムがおかしくても気持ちを入れることが大切」と言葉に心を込める大切さについて語られました。

2 日目は、青山学院大学のアレン玉井光江教授、岐阜聖徳学園大学の加納幹雄教授、本学ライアン准教授の 3 人によるグローバル化をテーマとしたシンポジウムを開催。小・中・高等学校教員による実践発表、また毎年好評の英語教育の専門家による英語指導力を高めるワークショップも実施。英語教育が大きく変わりつつある近年、より英語力を高める指導法や今後の動向についてシンポジストがそれぞれの立場から提言。加納教授は、日本より英語教育が盛んな台湾の授業風景を紹介。ライアン准教授は、日本の教育実習の短さを指摘。アレン玉井教授は小学校英語必修化に伴い、今後変わっていく教員研修についての話題に触れ、参加者は熱心に聴き入っていました。

さらに今回は 1 日目にランチョンセミナーとして、本学稲葉みどり教授が中心となって留学生による各国の文化紹介を実施。2 日目も 8 月、9 月にオーストラリア教育実習に参加した学生によ

る発表を行いました。参加者からは「多くの刺激を得られた。若い先生もたくさん頑張っている。自分のこれからに生かしていきたい」などの声が多く聞かれ、充実した研修会となりました。

（小中英語支援室　研究補佐員　稲垣真由美）

土曜親子日本語教室でクリスマスパーティー（12/21）

本学で毎週土曜日に開催している「土曜親子日本語教室」では、昨年 12 月 21 日（土）、同年最後の教室活動として、学習者さんと活動している学生ボランティア、地域の方々をお招きしてクリスマスパーティーを開催しました。持ち寄り形式のパーティーでしたが、アップルパイやサンドイッチといった力の入った料理も並びました。

今回の目玉は、日本語指導が必要な中学生とその友達、国際教室担当の教員の方が組んでいるバンドの演奏でした。本学の学生がボーカルとして参加し、大いに盛り上がりました。リーマンショック以降、参加する学習者が減り、また、日本語教育を必要とする方々の国籍やニーズも様変わりしてきました。毎年、ボランティアの学生が試行錯誤を重ねて活動を進めています。

土曜親子日本語教室は、成人向けの日本語教室と小中学生を対象とした学習支援、幼児を対象とした遊びの中で日本語に触れていく教室です。日本語教育専攻の学生だけでなく、教科学習支援では、様々な専攻の学生がかかわっています。

参加した保護者の方から、お子さんが学校で身につける日本語だけでは日本社会で暮らすための日本語が身につかないので、こういった教室で学ばせることが大切だと思う、というお言葉をいただきました。

（日本語教育講座　准教授　上田崇仁）

陸上競技部の木引由起子さんを学長表彰（12/24）

昨年 9 月 6 日～8 日にかけて行われた「天皇賜盃第 82 回日本学生陸上競技対校選手権」女子 400m 走で第 3 位（55.41 秒）に入賞する活躍をした陸上競技部の木引悠起子さん（初等・保健体育選修 3 年）の功績をたたえる学長表彰が 12 月 24 日（火）に学長室で行われました。式には、松田正久学長、陸上部監督の筒井清次郎教授（保健体育）が出席。松田学長から表彰状と教育研究基金からの報奨金が手渡されました。松田学長は「精進して、今後も陸上競技部の発展のために、そして文武両道で勉強の方もしっかり頑張ってください」と激励の言葉を贈りました。これを受けて木引さんは「今回、3 位でしたが結果（タイム）は良くないので、来年は、もっとタイムを縮めて、自分の納得のいくような競技を続けていきたいと思います」と力強く抱負を語りました。

（学生支援課課外教育担当係　亀山重人）

省エネ標語コンテスト表彰式（12/25）

本学では省エネルギーを推進しており、その一環として毎年、夏と冬に省エネポスターを募集してきましたが、今回は、より応募しやすくなるよう配慮して、「省エネ標語」の募集をしました。

応募総数 498 作品の中から、本学の関係職員による選考を経て、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点及

び学長特別賞１点を選出し、昨年 12 月 25 日(水)に表彰式を行いました。

最優秀賞は附属岡崎小学校５年　清水悠人さんの「もったいない　そんな気持ちが　エコを呼ぶ」。松田正久学長から清水さんら５人に表彰状と記念品が贈呈され、「おめでとうございます。受賞作品はいずれも省エネに対する気持ちを大切にすることが表現されており、その心がけをいつまでも持ち続けてください」と講評されました。

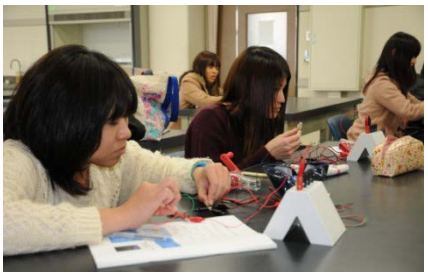
今回の最優秀賞からイメージされたポスターを作成し、省エネルギーを更に推進するための啓発活動に使用する予定です。

（財務企画課　財務総括担当係長　鳥居孝雄）

理科実験プレ教員セミナー(12/28)

小学校教員になる学生に、理科の指導への不安を解消してもらおうと、「理科実験プレ教員セミナー」が昨年 12 月 28 日（土）に開催されました。

本学の科学・ものづくり教育推進センターが主催し、冬休みなどの休業期間に実施しているセミナーで、今回は本学の学部・大学院、他大学の学生が計 10 人参加。4 講座が開かれ、午前は生物学実験「顕微鏡の使い方」、物理学実験「電流・電気単元の完全マスター」、午後は化学実験「化学薬品と実験器具の取扱いの基礎」、地学実験「月の満ち欠け」の内容で行われた。



物理講座では、岩山勉教授が小学校の学習指導要領による電気についての学習の内容を説明し、手回し発電機を使って子どもたちが電気について楽しく学べる方法を伝授。参加した学生は「自分で電気を作って見ることで、楽しく分かりやすい授業ができそう」と、熱心に取り組んでいました。

学生たちは「理科が得意でないので、教員になって教えるとなると不安。こういう講座を開いてもらえるのは、ありがたい」「専攻は理科ですが、高校でも選択していない科目があるし、実験は少ないので、よい機会。子どもたちに理科に興味を持ってもらえるように、学んで帰ります」と話していました。

馬術部が初の学内競技会(12/28)

本学の馬術部が初めての学内での競技会を昨年 12 月 28 日（土）に本学馬場で開催しました。午年とあって、今年は注目の集まる本学の馬術部ですが、実はその歴史は前身の愛知学芸時代にさかのぼり、50 年余りの歴史ある部活。現在は部員７人と少人数ですが、馬６頭、犬１匹を飼って、毎日馬の世話と各自の技術向上に励んでいます。毎年、年に数回、学外での競技会に出場して、東海大会を突破し、全国大会に出場するのが目標ですが、学外の競技会出場は馬の輸送などで費用がかかるため、今回初めて学内で実施しました。

この日は１，２ 年生の部員が出場。時折、雪が舞う厳しい寒さでしたが、競技用の正装をした学生は、練習とは違う緊張した雰囲気の中、馬場馬術という規定の動きを早く正確にこなす種目に

挑みました。先輩部員やＯＢ、コーチが、チェックシートで馬や騎手の動きを審査し、正規の競技会さながら。出場の学生も今年の練習の成果を発揮して、馬と一体となって、課題を次々にクリアしました。

主将の酒井みほのさんは「2014 年は全国大会出場が目標。達成できるように頑張ります」と抱負を語りました。

写真サークルが写真展（1/8－31）

本学の写真サークルＲＡＷ（ロウ）による写真展が、附属図書館アイ・スペースで 1 月 8 日から 31 日まで行われています。動物は風景などののどかな作品で来場者を楽しませています。

ＲＡＷは、昨年 10 月に造形文化コースの有志 24 人で結成した新しいサークル。昨秋の秋祭で展示した作品から抜粋して 21 枚と組写真 1 組を再展示しています。また、部員が撮りためた写真からセレクトしてアルバムに収めたポートフォリオも会場において、来場者が手にとって見ることもできます。

同サークル代表の大木春菜さん（造形文化コース 2 年）は自作の写真の前で、「写真が好きな人が集まって結成。造形文化の学生が中心なので、それぞれ色彩や構図に工夫があります。そんなところも見てもらえたら。これまでは、各自で撮影をしていましたが、今後は撮影旅行なども企画していきたい」と活動への意欲を話していました。

第 89 回天文台一般公開（1/11）

本学の天文台で「第 89 回一般公開」が 1 月 11 日（土）午後 5 時から行われました。

この日は、この冬一番の寒波到来で寒さが厳しく、昼間から雲が多かったのですが、それでも天文ミニ講座に 23 人、３D 映像上映会に 10 人が参加。今回の講座は「天文・宇宙何でも質問コーナー」として、参加者からの質問に澤武文特別教授（理科教育）が答えました。「宇宙人はいるのか？」「宇宙の果てはどこ？」などのよくある質問、子どもたちからの「月にウサギがいるの？」「月は本当に丸いの？」「もし月がなければどうなるの？」など月に関する素朴な質問、「一番大きな星は？」「なぜ星の大きさは違うの？」など星に関するもの、「銀河の種類はいくつ？」など銀河に関するもの、「宇宙の寿命はどのぐらい？」など宇宙に関するものなど 40 項目近くに、上りました。

観望会では、40 ㎝望遠鏡が工事で使えないため、小型望遠鏡 3 台で、雲間の月や木星、明るい星を見ることができました。また、今回は超高感度ビデオカメラを使い、オリオン座の小三つ星やオリオン大星雲、アンドロメダ星雲の存在も確認することができました。

３D 上映会は、これまで担当した 4 年生から 3 年生の学生にバトンタッチ。参加者との雑談も交えて、楽しんで解説をしていました。なお、次回の一般公開は 3 月 9 日（土）午後 5 時から開催の予定です。

お知らせ・報告・投稿

グローバル授業とランチョンセミナー（報告）

昨年末、本学で開催された五つのグローバル授業とランチョンセミナーについて稲葉みどり教授（日本語教育）に報告していただきました。

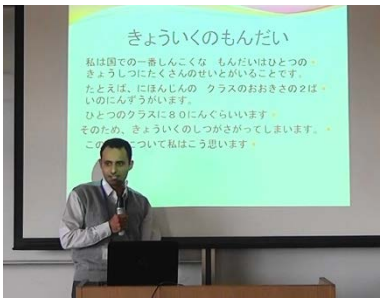
＊

11 月 26 日（火）、12 月 4 日（水）、9 日（月）に「ミャンマーの文化と学校教育」についてミャンマーからの 3 人の教員研修留学生により開催。1 日目は、数学教師のナン・ウイン（Naing Win）さんが担当しました。ミャンマーは中国、インド、タイ、ラオス、バングラデッシュと接する国で、国境付近の学校では教員が著しく不足し、教科書整備や教育方法の充実は大きな課題であると述べました。写真はウインさんの務める小学校と校長先生、先生達です。

2 日目は、高校の英語教師のトゥラ・ソー（Saw Thura Myo Aung）さんによる民族等の紹介です。ミャンマーは多民族国家で人口の約 6 割はビルマ族、その他、カレン族、カチン族、カヤー族、ラカイン族、チン族、モン族、ヤカイン族、シャン族等の少数民族がいます。中学校や高校の教科や時間割等の説明もありました。

3 日目は、ヤンゴン教育大学で教育管理を教えているヌヌ・トゥエ（Nu Nu Htwe）さんによる大学、大学院の紹介です。ヤンゴン教育大学には、学校教育、教科教育法等の科目があり、教員を目指す学生はこれらを勉強。大学には制服があり、学生も教員も制服を着ています。写真は大学院の授業風景です。教育熱は高く、多くが小学校から塾へ通います。

＊



12 月 3 日（火）にイエメンからの教員研修留学生フルサン・ムハメド（Frusan, Mohammed Qassim）さんにより開催。イエメンの首都サナは城壁に囲まれた古い都市で、世界遺産です。城壁の中には石造りの建物がぎっしり詰まっていて、路地では行商人が色々な物を売っています。フルサンさんはサナに住んでいて、英語の教師をしています。学校では、コーランやアラビア語などのイスラム教育が行われています。教育の一番の問題は 1 クラスの人数が 80 人以上と非常に多く、教育の質の低下を招いていることです。料理、通貨、スポーツ等の紹介もありました。

12 月 17 日（火）は、ラオスからの教員研修留学生にパティ・ミュアンパ（Meuangpak Padhith）さんが伝統や文化等の紹介。ラオスは仏教国で、多くの寺院が、僧侶に食べ物をあげる習慣があります。象祭り、ロケット祭り等のおもしろい祭りも。ラオスの言葉はタイ語に似ています。通貨は KIP です。ラオスの物価等について参加者から幾つかの質問が出ました。

＊

12 月 10 日（火）に韓国の協定校である韓国晋州教育大学からの特別聴講学生、ジョン・ガヒョン（Jeon Ga Hyun）さんが「韓国の学校と伝統行事」を説明。ガヒョンさんは「韓国の国旗はどちらですか？」「韓国語でこんにちは何と言いますか？」という質問や、「食事の時に箸とスプーンの両方を使う」「（ハングル文字を見せて）これは韓国

の有名なキャラクターです」「韓国ではすべての男性が軍隊に行きます」等の真偽クイズで楽しく文化を紹介しました。

12 月 19 日（木）には、米国ボールステート大学からの特別聴講学生、アリシア・ヘイマン（Henman Alicia Ann）さんが同大学や若者文化、教育の問題等を紹介しました。インディアナ州には日本の企業がたくさんあり、それが日本語学習に興味をもった動機です。米国では感謝祭の翌日から特大セールが始まり、ブラック・フライデーと呼ばれています。クリスマスの祝い方について、ディナーやデコレーション、家の飾り等の写真を見せながら紹介。アリシアさんの家では各部屋に大きなクリスマス・ツリーがあるそうです。最後に、お手製のクッキーが参加者に振る舞われ、みんな大喜びでした。

＊

12 月 21 日（土）、22 日（日）に開催された「小中高英語教育教員研修会」（小中英語教育支援部門主催）で、本学の 8 人の教員研修留学生等がランチョンセミナーを行いました。テーマは「各国の文化紹介と英語教育事情」です。ミャンマーのトゥラ・ソーさんは、学校教育制度、制服、校則等を紹介。ヌヌ・トゥエさんは、ミャンマーの大学教育、大学院教育について話しました。ナン・ウインさんは、ミャンマーの教育問題、教師不足に触れ、サミエル・ムアンギ(Mwangi Samuel Kigumi)さんは、ケニアの義務教育について述べました。ラオスのパティ・ミュアンパさんは、ラオス体操、伝統舞踊なども教える体育、音楽教育を紹介。フルサン・ムハメドさんは、イエメンの英語教育やカリキュラム等を説明しました。アリシア・ヘイマンさんは、米国では勉強しない生徒やモンスター・ペアレンツが多いことが教育問題であることを指摘しました。ジョン・ガヒョンさんは、韓国では英語ができると就職がしやすいので、英語教育熱は高く、留学する人は年々増加している現状を話しました。セミナーでは教育に関する各国の様々な話題が取り挙げられました。

コメント大賞表彰式と中山七里さんのトーク（報告）

昨年12月9日(月)に本学版コメント大賞授賞式と中山七里さんのトークショーを行いました。コメント大賞は、年間を通じて本を読んだ人が他の人にその本を勧めるときのコメントを募集するという「読書マラソン」に寄せられた応募作品のコメントの中で一番読みたい！と思えるコメントを書いた方を表彰するものです。今年の愛教大版コメント大賞は「レインツリーの国」で応募された現代学芸課程国際文化コース 1 年の窪池綾奈さんが見事、学長賞に輝きました。

表彰式の後は、「さよならドビュッシー」などを著している作家、中山七里さんのトークショーを行いました。作品の裏側や中山さんの学生時代の話、今の学生へのアドバイスなどとても良い話を聞かせていただきました。特に「Only One が良いなんて大嘘だよ、No. 1 を目指してください」という言葉が心に残りました。自分はあまり考えたことはありませんでしたが、何か一つ自慢できるものがほしいと思いました。今後も多くのみなさんに、読書に親しんでもらえるような機会をつくっていきたいと思います。

（読書マラソン表彰式実行委員(生協学生委員会)初等理科 2 年　坪崎友里）

参考：受賞者一覧

学長賞	「レインツリーの国」有川浩作	窪池綾奈さん

図書館長賞	「荻窪シェアハウス小助川」小路幸也作	寺山かなさん
生協理事長賞	「光待つ場所へ」辻村深月作	副島佳奈さん
特別賞	「夜一」恒川光太郎作	石原鳳野佳さん
特別賞	「密やかな結晶」小川洋子作	葛谷美古都さん
講談社賞	「妖怪アパートの幽雅な日常」香月日輪作	近藤香奈子さん

全国コメント大賞ナイスランナー賞

「荻窪シェアハウス小助川」小路幸也作	寺山かなさん
「幻想郵便局」堀川アサコ作	近藤香奈子さん
「世界と恋するおしごと　国際協力のトビラ」山本敏晴作	福田真穂さん
「なぜ、ノウハウ本を実行できないのか」ディック・ルー作	大橋尚貴さん

松田学長ら第 2 回日本･インドネシア学長会議に出席（報告）

昨年 12 月 11 日（火）から 15 日（日）まで 2 泊 5 日の日程で松田正久学長に同行し、「第 2 回日本・インドネシア学長会議」に陪席してきました。

同会議は、日本とインドネシア間の教育研究交流および産学連携の促進を目的にしており、一昨年 11 月に名古屋大学で第 1 回会議に引き続き行われたもの。今回は日本から 18 の国公私立大学、インドネシアから 43 大学が参加しました。

会議が行われたガジャマダ大学はジャワ島の中部にあるジョグジャカルタという都市にあり、広大なキャンパスに数多くの学部を有している総合大学です。

到着した 12 日（水）の夜に同大学のホールでレセプションが行われました。開始の直前に主催者側から挨拶を急遽依頼された松田学長は少し困惑された様子でしたが、インドネシアと日本の共通した事柄を取り上げ、特に両国は教育熱心であることを、準備時間がなかったのにもかかわらず流暢な英語で説明し、大役を果たしました。

翌日は会議が行われ、インドシアを代表して、ガジャマダ大学の学長、日本側から名古屋大学の濱口道成総長がそれぞれ挨拶をされ、グリーンエネルギーや、省エネルギー等についての議論が行われました。午後からは「研究部門」と「学生部門」に分かれてのグループセッションでした。

最終日の午前中はエクスカーションで、世界遺産のボロブドゥールを見学させていただきました。松田学長はその時間を利用して、本学協定校のジョグジャカルタ大学に表敬訪問され交流を深められました。

会議のコンクルージョンは以下のとおりです。

1．日本とインドネシアの学長会議は、提携協定のモデルが、日本とインドネシアの大学間での提携を強め、質を高めることもあるとみている。
2．同一化と組織化の共通の関心事は、協働の意見発表の場で決まることが重要。
3．意見発表は、学際的な局面や地域の問題点，科学・健康や人間性から取り組む機会とするべきである。
4．日本―インドネシア学長会議で共有されたもの得たもの

・ それぞれの尊敬に値する分野で同等の制度を決める必要性
・ 力強い実行力や前向きな評価を得るために、より組織的な手法を発展させる必要性
・ 日本―インドネシア学長協働により“知識

の入り口”を創設して地域や大学の研究対象を拡げる必要性

・ 学術交流と研究プログラムによって始まる、知的財産の取り組みによる研究基盤や大学間のプログラムに基づいて推奨されるアクションの必要性

５．学長会議は、話し合いの場として、かつ日本とインドネシアの大学の連携を強め、質を高める革新的な解決策を探す場として続けていくべきである。

なお、次回の同会議は日本で開催される予定。　（財務部長　福井豊）

東海・北陸地区国立大学法人事務局長等会議（報告）

本学が当番校として、12 月 13 日（金）に「東海・北陸地区国立大学法人事務局長等会議」が本学大学会館二階中集会室にて開催され、同地区の国立大学及び大学共同利用機関から事務局長等１３人が出席しました。

会議は、最初に、当番校として、海外出張中の松田正久学長に替わり岩崎公弥理事があいさつを行いました。その後、本学白石薫二理事・事務局長を議長に選出し、協議事項 3 件について意見交換を行いました。

協議事項の「東海・北陸ブロックにおける事務系幹部職員の人事交流に関する申合せ（案）について」（提案説明：名古屋大学竹下典行理事・事務局長）、「給与削減、退職手当の支給水準引下げ、55 歳超の昇給停止等に伴う取組について」（同：静岡大学前田千尋理事・事務局長及び岐阜大学吉村泰治理事・副学長）、「平成 27 年度以降の概算要求に係る対応状況について」（同：本学白石理事・事務局長）について、熱心な意見交換が続き、最後に、次回は金沢大学を当番校として開催することを確認し閉会しました。

閉会後は、第一福利施設二階ハンズにて情報交換会が行われました。（総務課長　佐藤博之）

海外協定校から招へい教職員紹介（お知らせ）

本学では平成 23 年度より，海外の協定校から教職員を招へいし，本学での研究を受け入れています。現在は，インドネシア，韓国，ブラジルからの教員 4 人が滞在中で，招へい期間や研究目的は下記のとおりです。それぞれ，期間中に講演会を開催し，研究成果などを発表する予定です。

＊

氏　　名：Mr. Eddy Purnomo, M. Kes., AIFO
所　　属：ジョグジャカルタ大学講師（インドネシア）
招へい期間：平成 26 年 1 月 7 日（火）～2 月 28 日（金）
共同研究者：春日規克教員（保健体育）
研究題目：“The Anthropometric Characteristics, the Body Composition and Somatotype for AUE and Yogyakarta State University ”

氏　　名：Dr. Jaemyung GOO
所　　属：光州教育大学校准教授（韓国）
招へい期間：平成 26 年 1 月 7 日（火）～2 月 20 日（木）
共同研究者：建内高昭教員（外国語教育）
研究題目：“Input modification and L2 Learning”

氏　　名：Dr. Byoungrae HAN
所　　属：晋州教育大学校准教授（韓国）
招へい期間：平成 26 年 1 月 10 日（金）～2 月 20 日（木）
共同研究者：野崎浩成教員（情報教育）
研究題目：“Computer Education at AUE”

氏　　名：Dr. Gerson Aparecido Yukio Tomanari
所　　属：サンパウロ大学教授(ブラジル)
招へい期間：平成 26 年 1 月 12 日(日)～2 月 14 日(金)
共同研究者：二井紀美子教員(外国語教育)
研究題目："On behavioral and learning aspects of Brazilian students in Japan "

＊

問い合わせ：教育創造機構運営課　℡０５６６・２６・２７１６

催しもの案内

◆劇団把°　夢第106回新春公演「エゴ・サーチ」
1月18日（土）14：00／18：00、19日（日）10：30／14：30（開場は30分前）
七ツ寺共同スタジオ（名古屋市中区大須2）
料金：前売り・予約500円、当日800円
問い合わせ：井田さん　℡０９０・９１８５・５５７２
講演特設ＨＰ：http://pamu2014egosearchi.web.fc2.com/

編集後記

今号でも紹介しているグローバル授業は、学生はもちろん、教職員も参加ができるので、取材も兼ねて度々参加しました。ミャンマーやラオス、ケニアなど、訪ねる機会の少ない国の文化や教育事情に触れることができて、毎回新鮮でした。発表者は教員や教育大学の学生とあって、お国事情を分かりやすく、楽しく紹介する工夫もあって、興味深く聞かせてもらいました。ランチタイムのミニ国際交流にもなっているグローバル授業が、来年度も楽しみです。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。
メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp　編集責任者:総務担当理事　折出　健二